

平成28年度
第1回西脇市総合教育会議
議事録

平成28年7月26日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議
議事録

1 開催日時

平成28年7月26日（火）午後1時15分～午後3時

2 開催場所

西脇市茜が丘複合施設 会議室1

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	藤原久和	教育委員	内橋和彦
教育委員	岩本理香	教育委員	依藤三枝子

(2) 事務局

都市経営部長	筒井研策
教育部長	森脇達也
教育総務課長	清瀬泰弘
学校教育課長	竹内誠
学校教育課主幹兼教育研究室長	松本亨
生涯学習課長	山本昇司
青少年センター所長	永井寿幸
図書館長	楠本昌信

4 傍聴者

2名

5 会議の概要

(1) 市長あいさつ

(2) 協議・調整事項

ア 西脇市の学力・体力について

(ア) 学力向上に向けての取組について

(イ) 体力向上に向けての取組について

イ インターネット利用に係る現状と課題について

ウ 市立図書館と学校図書館との連携の在り方について

(3) その他

西脇市総合教育会議 議事録（平成28年7月26日）

○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成28年度第1回西脇市総合教育会議を開会いたします。

私は、本日、事務局を務めさせていただきます教育部長の森脇でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして片山市長から御挨拶をいただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◎片山市長

お疲れさまでございます。

平素より、教育委員の皆様方には、本市教育行政の推進に格別の御支援、御尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

ご存じのとおり、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、この総合教育会議を昨年度から開催させていただいております。

私は、本年度の施政方針の中で、昨年引き続き「教育の復活」を重点施策の一つとして掲げております。学力向上に力点を置いた取組みを引き続き進めていくとともに、特に本年度は、いわゆる知・徳・体の「知」の部分だけではなく、それら全てをバランスよく身に付けることが学力向上には必要不可欠であることから、学力向上の基盤となる心や体の部分についてもバランスのとれた施策を展開し、全国トップレベルの学力を目指して参りたいと考えております。

また、今年度から新しい取組といたしまして、私が小中学校で、ふるさとについて語るという事業をさせていただいております。黒田庄の小学校で話をした時に、合併前の役場の場所を知っている子がいないということに驚きを感じました。自分の住んでいる町の地名の由来や、歴史を知ることがとても大事なことだと感じております。また、地域の方々に教育にかかわっていただいているということが重要で、情報交換ができるような仕組みや発信が必要だと思います。

本日は、大変短い時間ですが、実のある議論や意見の交換をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

この後、議事に移らせていただきますが、会議の議長につきましては、

「西脇市総合教育会議運営要綱」に基づきまして、市長にお願いいたしたいと思います。

市長、よろしく申し上げます。

◎片山市長

それでは、まず、議事録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。藤原委員、依藤委員、両氏に申し上げます。議事録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の議事録の承認とみなしますのでよろしくお願いいたします。

◎片山市長

引き続き、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。

初めに、次第2の協議・調整事項(1)、「西脇市の学力・体力について」を事務局から説明させていただきます。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

説明が終わりました。何か御意見、御質問はございませんか。

○委員

今回、初めて市内統一テストを行って、小学校低学年の学力が分かりました。ここ数年、全国学力テストで平均点を取ることができない結果になっていましたが、やはり、低学年から力を入れていかなないといけないと改めて分かるデータだと思えます。教科への関心・意欲・態度というところについて、意欲的に取り組ませるような指導をしていく必要があると思えます。7月12日に行われました播磨東地区教育委員会連合会研修会での講演で、学習意欲を高めることによって基礎学力が上がってくる。今やっている勉強が将来につながり、将来こんなふうに使えるところを自覚させることが学習意欲の向上につながるのではないかと言われていました。そういうことを施策として推進していただきたいと思えます。そのためには、教員の授業力向上のスキルアップも必要だと思えます。

◎片山市長

今、行っている施策をいくつか紹介してください。

○事務局

授業内容については、昨年度から、まずは、子どもたちが見通せる授業の展開が必要であろうというところで進めております。また、自分で考え、友達と意見交換をして、発表につなげていくという授業や、問題データベース等でそれぞれの児童、生徒に合わせた状態で問題にあたるようなものも利用しています。小学校では、自分の意見をまとめるた

めに、私はこういうことについてこう考えますというリード文を設けて自分の考えをまとめていくような授業展開をしています。算数、数学に関しては、実際の実体験を使うことで、授業が身に付くようにしております。

○委員

読むこと、書くこと的能力が随分低下していることから言いますと、朝読の後に感想などを話し合い、発表するということを、更に 100文字にまとめて発表されているところもあるようですので、それは大変いいことだと思います。

○事務局

市内統一学力調査につきましても、ほぼすべての学年について、総じて弱いところは作文です。全ての教科で、自分の意見を何文字以内でまとめなさいというところが弱くなっています。指定された文章の中で自分の考えをいかに相手に分かるように伝えるかというところの力となりますので、そこを強めていかないといけないと感じています。

○事務局

原点の話に戻らせていただきますと、学習意欲の向上が大切だというお話だったと思います。学習意欲の向上というのは、勉強が分かる、楽しいということです。昔から言われていることでありますけれども、そのためには表現力が大切だという結論に達して、今年度予算化し、表現のプロを目指すという施策にしました。その前に、今年のテーマとして「もっと知りたい、しゃべりたい」ということを掲げました。もっと知りたいというのは、もっと学びたいとか意欲を向上させましようということです。もっとしゃべりたいというのは、子どもたちに表現をさせましようということです。しゃべる後ろには能力が必要ですので、その二つを合体させた言葉を考えようと思い、このテーマにしました。そして、今年度たくさんの事業を予算化し、来年度、再来年度、5年先、10年先を見通した学力向上を目指して事業を行っております。心・技・体とまとめて同時に行っていかなければいけませんので、教育委員会としてうまくまとめ上げながらやっていかなければいけないと思っています。どうしていけばよいのか考える材料をいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○委員

今年度、市内統一テストを行って、西脇市の児童、生徒の弱み、強みが分かったと思います。先生が小学校1年生から6年生まで育て上げるために、どの学力までもっていくのか、こういう子どもにしたいとか、

また、子ども自身がどういう人間になりたいとか、そういう過程を、卒業して、中学校へ進学する時に検証してみるのも一つかと思います。

また、教育委員会でもよく話が出ますけれども、学校だけでは限界があると思います。もっと家庭を巻き込んで、更に地域にも、今、市内学力テストを実施していますというPRをして、市全体で取り組む必要があると思います。当然のことながら、家庭力も問われると思います。学校や行政が一生懸命やっても、家庭は学校に任せているということでは仕方ないと思います。どうしても学校と家庭に距離を感じるがあります。

「教育の復活」というところで、弱みと強みをうまく引き出して学力向上を目指していけば、少し変わってくるのではないかと思います。今年1年の結果ですぐには変わらないと思いますが、これがヒントになって、次のステップに上がれるということが、市内統一テストをされた思いだと思いますので、もう一度深く検証していただけたらと思います。

◎片山市長

学校も一生懸命やっている中で、家庭にも危機感を持ってもらわないといけないという御意見ですが、危機感を持ってもらうということは、家庭にも、一般市民にもこの情報を共有化して方向性を議論できたらと思いますが、どうでしょうか。数字というものは、ある意味で冷血であり、フェアでもあると思いますが、御家庭で教育に携わっておられる委員さんはどうお考えでしょうか。

○委員

この結果は事実ですので、この結果を西脇市はこういう状態だということを知っていただいて、そこで何かが変わっていくということはいいと思いますが、いろいろな御意見があると思いますので、難しい問題だと思います。

○委員

情報という意味では、個人情報とかという難しい問題が出てきておりますので、数字というものは、市長がおっしゃったとおり、本当に見て分かるのですけれども、厳しい面もありますので、私は難しいかなと思います。

昨年の8月に子ども議会で、子どもたちが市内統一テストを行ってほしいという提案があって、予算化され、今年度実施できたことで見えてきているという点もあります。弱いところが分かってきて、学力向上委員会や各学校で工夫をしていただいておりますが、やはり、学校だけでは限界があり、特に小学校低学年は家庭学習の習慣が大切になります。

小学校3年生の結果がこうだったということは、幼児教育の観点からということも大切だと思います。

○事務局

今、委員さんから、学校教育も限界に来ているという御意見がありました。昔と違って、個々に応じた指導を広め、深めており、特別支援教育の広がり、多様な子どもたちにより深く対応していかなければならない状況です。法律で教員の定員が決まっている中で、非常に苦しい状況で教員は頑張っております。家庭では核家族化が進み、学校に支援を求めますが、学校で支援するということが困難になり、また、子ども会を維持できる地域も減ってきており、学校、家庭、地域という三者がうまく循環できていない状況にあります。

福井県や秋田県のようなトップレベルのところは、家庭というベースになるところがしっかりしていますので、そういった3世代で過ごす時間を増やし、様々なルールを教わるということが大事だと思います。

今回のテストで、小学3年生の学力が低いということが分かりました。ということは、2年生も1年生も幼稚園も保育園も低いということだと思っています。この結果を受けて何をするのかと考えましたところ、始めの一步作戦ということで、産まれてすぐに何をするかということで、学校訪問に図書館長も一緒に行って、まず、本を読ませる力をつけようということをやっています。学校図書も充実していかなければいけませんし、市を挙げて本を読むという文化を作っていく、幼児期から本に親しんで、小学校のレベル、中学校のレベルへつながっていくようにしたいと考えています。

◎片山市長

図書館が新しくなり、貸出数はどれぐらい増えていますか。

○事務局

平成26年度と平成27年度を比べますと、だいたい倍ぐらいになっております。一人当たり6.4冊ぐらいになります。

◎片山市長

現状を把握して、年間何冊読ませようかという目標を数値化し、施策としていくことが大切だと思います。

○事務局

子どもたちが読書をするためには、身近に本がないといけないと思います。図書館だけでは、遠いところの方は来にくいところがありますので、身近に図書を揃えて、読みたいときに読めるという環境ができればいいと思います。そのためには、学校図書室を充実させ、活用していく

ことが大切だと思います。すぐに学校図書室を整備するという事は難しいと思いますので、今は市の図書館が充実しておりますので、団体貸出をもっと増やす方法も活用しながら、身近な環境を整えないといけないと考えております。

◎片山市長

昨年子ども議会で、自分の学校での順位は分かるけれども、自分が市内でどれぐらいの順位にいるのか知りたいという素直な意見で、今年度、市内統一テストが実施されることになったと思います。そうすることで、全体のレベルアップも図れると感じました。

◎片山市長

続きまして、協議・調整事項(2)「インターネット利用に係る現状と課題について」事務局から説明させていただきます。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

資料の中の「西脇市の小中学生の携帯電話やスマートフォン等の利用について」というところで、提言の一つに、中学生には自分のスマートフォンは持たせないということを挙げています。今の時代、非常に難しい問題だと思いますので、青少年問題協議会からの提言について、委員様方から御意見をいただけたらと思います。

○委員

防犯上、携帯電話はいいと思いますが、インターネット機能があるスマートフォンについては、親が所有しているもので十分だと思います。調べ学習や情報収集についても、パソコンで事が足りると思います。

○委員

私は、小学生がスマートフォンを持つという意味が分かりません。安全確保のためであれば、キッズ携帯があると思います。今は何でも携帯で調べられる時代ですが、昔は地図を見て、辞書を見てと頭を働かせていました。今は誰もが携帯電話を持っていて、誰もが犯罪に巻き込まれる可能性があるので、使い方を考えないといけないという話をしたことがあります。持っていたら便利な物ですが、使い方を間違えればおかしな方向に行ってしまうので、それも家庭で親と一緒に考える必要があるのではないかと思います。

○委員

先日、SNSの講演会を聞く機会がありました。そこで講師の先生が、子どもが家庭で親に話しかけた時に親がスマホをさわっていて、無視されたことがある人と聞かれた時に、たくさんの子が手を挙げていました。

家庭の中で、親自身がそういう状態になっている状況です。子どもへの提言だけでなく、家庭に向けた、親への提言もあっていいのではないのでしょうか。また、スマートフォンの情報が正しい情報だとは限らないので、新聞やニュースなど、いろいろな方面から情報を得ないといけないことや、LINEで友達同士つながるのも、まずは、人と出会って人とつながってからですよとお話をされていました。

○委員

私も小中学生にスマートフォンは早いと思いますが、今、高校3年生の子が中学生3年生の時には、持っていない子が数人で、ほとんどの子が持っているという状況でした。友達とのやりとりで必要だということで、親も買うという形が多かったと思います。

今は、ポータブルゲームでもインターネット回線が使えますので、LINEのやりとりができたり、3年程前までは、友達の家を集まって一緒にゲームをする形でしたのが、今は、家においてもオンラインで全く知らない人とも友達ともゲームができる時代になっています。講演会の中で、4歳ぐらいからオンラインゲームをやっている子もいるというお話もあったようですので、保育園や幼稚園でも話をさせていただいて、親も注意をしておく必要があると思います。

○事務局

小学生の携帯電話、スマートフォン所有率ランキングでは、東京都が1位で61.8%、兵庫県は6位で61.1%、最下位でも秋田県の43.1%です。こういう実態も含めて、必要でないという根拠を出さないといけないと思います。

先ほどお話の出ました、親がスマホをさわっていて、子どもの話を無視するとか、電車の中でもほとんどの人がスマホをさわっているという時代で、こういう社会現象も含めて、我々がどう捉えて子どもたちに持たせないという方向に持っていくかということを、アンケート結果を見て、よく詰めていかないと厳しい状況だと感じています。

◎片山市長

青少年問題協議会のメンバーは、大半が子育てを終了された世代の方で、この提言を今の子育て世代の保護者の方に持っていきますと、猛反発されそうな気がしますし、逆に助かったと言っただけかとも思います。

○委員

今、子育て中の若い保護者の方は、小学校、中学校の時からすでに携帯電話がある時代に育っていて、その世代が今、親となっていますので、

きっちりした根拠を持って、何がいけないのかということを示さないといけないと思います。

◎片山市長

続きまして、協議・調整事項(3)「市立図書館と学校図書館との連携の在り方について」事務局から説明させていただきます。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

資料の中の、学校園への団体貸出で、102学級2,510冊を、目標何冊にしていますか。

○事務局

倍ぐらいには増やしていきたいと考えています。102学級というのは延べで、たくさん借りている学級と全く借りていない学級があります。

◎片山市長

借りている学級と借りていない学級をデータで示して判断していただかないといけないと思いますので、今後の課題としてお願いします。

○事務局

本を読む文化を西脇市に根付かせなければいけません。家庭で本を読んでいるという光景を造る前提として、まず、学校で本を読む文化を造りたいと思っています。その延長線上に市民もそういう風にしていきましょうというのが市立図書館の役目です。そういう流れで、本が読まれているという西脇市の文化を造ることが大事だと思います。

○事務局

家庭にも本があり、学校にも本がある。子どもは皆、本が好きで、身近に本があれば、子どもは本を手に取ります。図書館はそのバックアップをする所だと思っています。やはり、身近にあるという意味で、学校図書室の充実が求められるところだと思います。

◎片山市長

各コミセンでの本の貸出と返却の運搬は職員が行っていますが、その職員に学校へ行ってもらおうということはできませんか。

○事務局

現員での対応は難しいと思います。

◎片山市長

例えば、職員が運搬するコストと宅急便で送るコストを比較するというコスト意識を持って考えて行く必要があると思います。

今回、業者と契約し、高齢者に安否確認を含めて書類を届けるというサービスを開始しました。業者にとっても社会的に意義のある仕事であ

ると思いますので、新しい提案として考えていただきたいと思います。

また、遠いところに住んでいる子どもたちはなかなか図書館へ行けない状況ですので、団体貸出で読んだ本についても読書通帳に記帳できるようにできないかと思っています。

○委員

子どもに読み聞かせをする時には、少し値段が高くてもよい絵本を見せてくださいという講演を聞いたことがあります。よい絵本を選んで読み聞かせをすることと、興味を持つ本を与えるということも大切だと思います。

◎片山市長

ほかに御意見がないようですので、事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局

次回の総合教育会議の開催につきましては、協議題との関係もごさいますので、10月から11月頃を予定しております。事前に事務局から調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

◎片山市長

それでは、これをもちまして、平成28年度第1回総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。

————— 閉 会 —————